

従来技術



発明技術



(1) 従来技術の問題点

- ・作業通路や路肩明示の明示物で共通して使用できるものがなかった
- ・現場条件に応じた明示物を設置したい場合で、明示物の高さや色の組合せ等を自由に選べる市販品がなかった
- ・カラーコン等のプラスチック製の明示物は耐久性がない
- ・カラーコン等は狭隘な場所に設置すると通路幅員が確保できなくなることがある
- ・路肩明示物の市販品はほとんどないため現場の創意工夫に任されている
- ・一般の明示物は収納時にかさばる

(2) 発明技術による改善点

- ・40cm支柱（ワンタッチジョイント式）を基本ベースとし通路や路肩明示の明示が可能
- ・現場条件に合わせて高さや色の組合せやオプションを用いて明示物の差別化が可能
- ・耐候性をもったプラスチック製であり軽量で扱いやすい
- ・床上はカラーコンより幅を取らない専用ウエイトを採用、路肩明示用には専用打込み杭を採用、単管にはクランプ式、鉄板H鋼にはキャッチクランプ式のアダプターがあり、どんなところにも明示物の設置が可能、頂部には専用自発光誘導燈も準備し夜間誘導も安心
- ・コンパーで誘導・立入禁止明示をする場合に何段でも設置可能
- ・収納時はとにかくコンパクトであり、専用ウエイトも積み重ね可能